

はあとふる

Vol **45**
WINTER

Heartful 2014.1

地域の皆さまに、心(Warm Heart)と知識(Cool Head)と技術(Beautiful Hands)でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌



■特集

はあとふるグループでは、
専門的な知識と技術を用いて、
感染管理を行い
サービスの質の向上を図ります。

インタビュー

感染管理認定看護師のお仕事

まめ知識

運動に勝るクスリなし!?

トピックス

病院機能評価を受審して

第22回 はあとふる学会を開催しました。

“Cafe” Infection Control

過去を追うな。未来を願うな。

過去はすでに捨てられた。未来はまだやって来ない。
だから現在のことがらを、現在においてよく観察し、
揺らぐことなく動ずることなく、よく見きわめて実践すべし。



ただ今日なすべきことを熱心になせ。誰か明日の死のあることを知らん。 理事長 島田永和
増谷文雄著「仏陀のことば」“一夜賢者経”より

はあとふるグループは、結核診療から整形外科、スポーツ整形外科、運動器リハビリの施設へと変貌を遂げてきた「島田病院」を核とし、急性期後の「八尾はあとふる病院」での集中的なリハビリや介護療養病床、介護老人保健施設「悠々亭」、在宅生活をサポートする通所・訪問など介護サービスにも取り組み、「その人らしい生活や人生」をお手伝いして参りました。

超高齢社会を迎え、これからの体制が議論されています。その中で「島田病院」の新病院建設計画を含め、各施設・各事業がそれぞれの地域のケア体制にどのように参画するのか、また、すべきなのか将来を話す機会が増えています。

そこで、この仏陀の言葉です。「現実を直視し、状況をしっかり分析した上で、ぶれずに実践せよ」と教えています。あくまで「今、ここにいる自分」を主体として、過去を振り返り、将来を語ることと解釈しています。

一人称の「私」が、「今」「ここで」何ができるのか、何をしなければならないのか。現状を見つめ、しっかりと受け止めた上で、できることを精一杯実行することが自分らしく生きることなのだと思います。

平成26年、職員みんなが毎日を大切に、日々それぞれの立場にとって「今日なすべきこと」をそれぞれのやり方で「熱心になす」ことができるよう、管理者の代表である私の役割はきわめて重いと痛感しています。

今年も、どうぞ、よろしくお願いします。



島田病院、八尾はあとふる病院は
『病院機能評価認定病院』です。

はあとふる グループ

医療法人(財団) 永 広 会
社会福祉法人 はあとふる

はあとふるグループの理念 その人がその人らしく 自分の人生を全うすることを Warm Heart:心 Cool Head:知識 Beautiful Hands:技術 で支援します。

はあとふるグループでは、感染管理を理念の中にある「Cool Head:知識 Beautiful Hands:技術」の一つとして捉え、積極的に取り組んでいます。患者さま・ご利用者・来訪者・医療従事者・施設・環境を対象に、感染に対するリスクを最小限に抑えるために、正しくかつ効率的な感染管理を行うことで、ヘルスケアサービスの質の向上を図ります。

感染対策で大切なこと

それは“感染予防”と“感染症を早く見つけて正しく対応する”ことです。

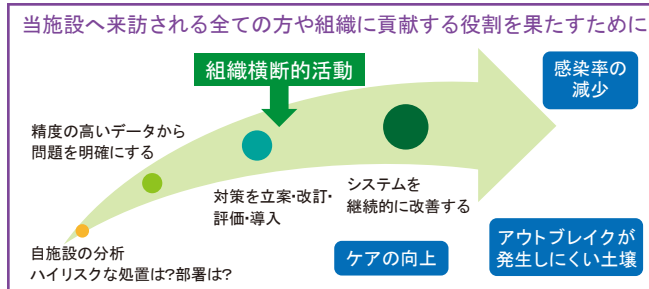
そのために取り組んでいる方法を図1に示しました。部門や部署、職種に関係なく組織を横断してチーム活動を行うことで、感染対策で大切なことが実践できます。この活動を牽引するのは感染管理認定看護師です。

キーマンになる感染管理認定看護師の仕事

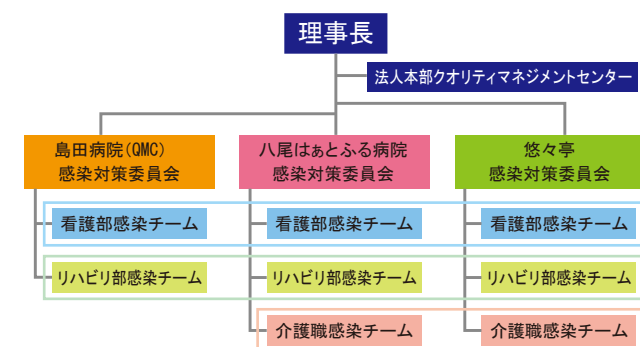
感染管理認定看護師は、患者さま・ご利用者や医療従事者の感染予防に努めることを専門としており、2013年までに、全国で1,500名誕生しています。現在、はあとふるグループでは2名が活動しています。

感染管理認定看護師は感染症が増えていないか常に「見張り」を行います。特に冬になると患者さんやご利用者さんにインフルエンザやノロウイルス対策にご協力いただけるようポスターを掲示し、周知しています。また、全ての職員が感染予防を実践できるよう研修会の企画やマニュアルを整備します。感染予防を全ての職員へ伝えるために、はあとふるグループでは、多職種で構成する感染対策委員会と専門職種別のチームで取り組んでいます。図2は、はあとふるグループの感染対策に関わるチームの組織図です。職種別にチームを作っているのが特徴です。このチームに活躍してもらい、感染予防の成果を上げることが感染管理認定看護師の大きな役割と考えています。

■感染対策の考え方(図1)



■グループ全体の感染対策に関連する組織図(図2)



島田病院医療安全管理室 院内感染管理責任者 感染管理認定看護師

森下 幸子

今年で、認定取得10年を迎える
ベテランになってしまいました



2003年 日本看護協会看護研修学校 認定看護師教育専門課程
感染管理学科入学

2004年 感染管理認定看護師取得

2013年 看護師特定能力養成調査試行事業実施課程(感染管理分野)修了平成25年診療の補助における特定行為に係る医師の指示に基づくプロトコル試行事業中
メディカ出版INFECTION CONTROL 編集同人
一般社団法人日本感染管理ネットワーク副代表理事

専門職種別の感染対策チームの活動を紹介します

看護部感染チーム

手指衛生は、医療従事者の感染対策の基本中の基本です。毎年手洗いキャンペーンや啓発ポスターの掲示をしたり、感染対策研修会を開催して、啓発しています。しかし、一時的には遵守率が上がるものの、いつの間にか下がってきて、「やっているつもり…」になってきてしまうのです。正しい手洗いを継続できるように、看護部感染チームが各部署の手指衛生の遵守

率を毎月チェックして、その結果を年4回まとめています。チームメンバーが部署会や手洗いのペーパータオルホルダーに貼り付けたりして、現場スタッフに知ってもらいます。また、清潔・不潔が混在しない環境作りも大切なので、毎月、現場のラウンドを行っています。チェックリストを用いて点数化し、環境面に問題がないかを観察し、改善しています。

リハビリ部感染チーム

リハビリと感染はあまり関係がないように思われるかもしれませんが、セラピストは他の職種と比較して患者さんと長時間接し、直接手で患者さんの体に触れることが多い職種です。また、リハビリの対象となる手術の前後や高齢の患者さんは体の免疫力が低下していることが多いため、セラピストには正しい感染対策の知識と実践が求められます。

リハビリテーション部ではセラピスト教育の一環として、毎年1～2回吐物処理と手指衛生の勉強会を実施しています。衛生面では手洗い場に手洗い方法のポスターを掲示し、手洗いの徹底を促しています。意味のある手洗いへとつながるように、手洗いの目的も私たち感染・安全委員がしっかり伝えていきます。いろいろな物品があるリハビリ室では安全な環境を提供することがとても重要です。また、物品が使いやすい環境を作ること、限られた時間で安全にリハビリを提供することが可能になります。その中で私たちが工夫をしている一つとして、物品棚の整頓方法の掲示があります。元あった場所に物品を戻すことを目的に整頓された写真を掲示して毎日の業務終了後に確認しています。物品が整理され、誰でもいつでも使える状態になっています。



リハビリ中の嘔吐を仮定し、感染を広げない片付け方法の訓練



手洗いのチェッカーで正しく手洗いが行えているか確認しています。



リハビリ室にある物品棚。いつもきれいに整理整頓されています。

介護職感染チーム

介護職感染チームでは、月1回の委員会開催とその後のラウンドを行っています。八尾はあとふる病院では、各病棟と通所の介護職で活動しています。3ヶ月ごとに感染防止や安全に対する啓蒙を目的とした「安全感染だより」を発行し各部署へ配布しています。また毎年、外部で主催されるベストプラティクスの研修会にも参加し、イラストを入れたわかりやすい感染マニュアルの作成や他施設との交流を深め新たな知識や刺激を受けています。介護の現場にあった安全対策、感染対策を考え、業務の改善を行い、スタッフが同じ知識をもってケアができるように活動しています。

悠々亭では、入所、通所、訪問サービスの介護職で活動しています。季節的に予測されるノロウイルス性胃腸炎などの感染を最小限に食い止めなければならないのが、介護、看護の職員です。毎年、嘔吐物の処理方法のトレーニングを実施しています。一人でも多くの職員に嘔吐物の処理方法の伝達ができるように、ランチタイム、夕方の2部制にし、実際に模擬吐物を作って、よりリアルに実技ができるようにしました。昨年との違いは、泡ハイターの導入でした。嘔吐物処理の実技後は、手洗い講習も実施しています。



写真左／掲示板に貼りだした「安全感染だより」

写真中／ノロウイルス流行に備え、複数人が嘔吐されたと仮定し、感染を広げない片付け方法の訓練

写真右／正しい手洗い方法の訓練



地域に広げる感染対策 ～感染対策ネットワーク～

医療機関が連携してお互いに感染対策を充実させ、地域の方々へ安全な医療を提供することを目的として、南河内感染対策ネットワークを設立しています。感染対策は自分の組織だけでなく地域へと広がっているのです。はあとふるグループは、自分たちの施設だけでなく、地域の方々安心してヘルスケアサービスをうけることができるよう、感染防止の活動に取り組んでいます。

来院されるすべての皆さまを 感染から守るべく、 日々、感染防止活動に取り組んでいます



島田病院 看護部 外来・手術担当主任 感染管理認定看護師 山本典孝さん

島田病院に限ったことではありませんが、病棟、外来に勤務する男性看護師の人数は、まだまだ少なく、手術室勤務をしながら臨床工学技士などの資格を取得していき、スキルアップしていくことが多いと思います。しかし、私の場合は、男性だからこそできる看護があるのではないかと考えていたので、患者さんと直接ふれあう機会が多い病棟・外来勤務を希望していました。そんな私に、当時勤務していた病院の上司から感染管理認定看護師の資格取得をすすめられたのが、この分野に興味を持ったきっかけです。

感染管理認定看護師になるためには、看護師としての実務経験が5年以上と通算3年以上の感染管理に関わる活動実績が必要で、認定看護師教育機関での集中した教育を受けたあと、試験に合格しなければなりません。私の場合は、島田病院に入職する前の病院で、これらの実務経験を積み、資格を取得しました。島田病院に入職したきっかけは、感染管理認定看護師の先輩にあたる森下さんの影響が大きかったですね。認定看護師の教育を受ける過程で、森下さんの講義を何度か受けました。この分野で働く先輩は、まだまだ少ないので、実際活動している先輩から知識を吸収したいという気持ちが強かったです。

島田病院に入職してからは、看護のチームで、委員会活動

や勉強会、研修の開催などを行っています。

医療関連感染(院内感染)などの新聞記事を見かけることがあると思います。私たち感染管理認定看護師は患者さんをはじめ、来院されるすべての方、医療従事者を「感染から守る」という責任感を持って日々の業務に取り組んでいます。

職業病と言えるかもしれませんが、この資格を取得してからは、生ものを食べることができなくなりましたね。以前は、生牡蠣など大好きだったのですが、この資格を取得してからは、今は必ず火をとおしてから食べるようにしています。「感染管理認定看護師が、生牡蠣食べてノロウイルスに感染した」なんて、ちょっと笑えないですよ。そんな私のストレス発散方法は、釣りと農作業です。特に農作業には力を入れていて、自宅の庭に畑を作って、できた野菜をおいしくいただいています。スタッフにお裾分けもしているんですよ。



新入職者を対象とした感染研修で講師を務めています。

第17回 大阪病院学会へ行ってきました。

この学会は、平成25年10月20日(日)大阪国際会議場(グランキューブ大阪)にて「大阪の医療・介護の進化」をテーマとして開催されました。

当日は、332題の演題発表と「医療・介護の連携～終末期医療のあり方～」をテーマとしたシンポジウムが行われ、多くの病院関係者が集まった盛大な学会でした。その中で、2つのセッションで優秀演題賞に選ばれました。



写真左 「手術前外来における多職種オリエンテーション」島田病院 看護部 看護師 山本典孝

写真右 「医療と介護をつなぐお薬手帳～多職種でもっと活用しよう～」島田病院 地域連携部 医療ソーシャルワーカー 北川英紀

運動に勝る クスリなし!?



■島田病院 整形外科科長 金田国一(脊椎担当)

私が小学校1年生の頃、担任の先生がよく紙芝居をしてくれました。その中で、気に入っていたのが、題名は覚えていませんが、こういうお話でした。

あるところに、ぽちゃっと肥えた初老の社長さんがいました。その社長さんは、いつも、身体がだるく、めまいがし、食欲がなく、時に動悸がし、ときどき腰が痛くなり、夜なかなか眠れず、自分のことを重病だと思っていました。

それで、いろんなお医者さんに治療してもらいましたが、一向に良くなりません。処方されるクスリだけが、どんどん増えて、スコップ1杯分の粉薬を毎日飲んでいました。

そこで、遠くの街の名医と評判の高いお医者さんに、なんとか治療してもらえないかと手紙を書きました。自分の症状や今までの治療内容を書き送りました。

すると、そのお医者さんからの返事が届きました。「今飲んでいるクスリを止めて、歩いて、私の診療所に来てください。」たぶん、大阪と名古屋くらいの距離だと思えますが、その社長さんは、「歩いて」というところに引っかかりましたが、薬にも頼る思いで、言われたとおりにしました。

季節は春頃で、はじめは、上着を着て歩き始めました。日頃ほとんど歩いていませんから、歩くのが辛く、宿についた頃には、へとへとになって食事までできないほどでした。

しかし、その社長さんは、頑張りました。何日目かには、だんだん歩くことが楽しくなり、食欲も旺盛になり、夜もぐっすり眠れるようになりました。気がつくとなんてランニングシャツ1枚で歩いていて、めまいもだるさも、腰痛も感じなくなりました。

そして、ついに名医の診療所に着きました。「言われたとおり、歩いてきました。私を治してください。」
「それで、今のご気分は?」
「それが、不思議なのですが、今まで悩まされてきた症状が、嘘のようになってしまっているのです。」
「そうですか、それは良かった。もう治療の必要はありませんよ。」
めでたし、めでたし、というお話でした。

「運動に勝るクスリなし。」といったところでしょうか。スコップ1杯のクスリとか、不機嫌な表情の社長さんが、だんだんニコニコしてくる展開が、とても気に入ったことが思い出されます。

自分が病気だと思うと、安静にしないではいけないとか、無理をしてはいけないなどと思いがちですが、運動不足が原因の場合もあるのです。

ところで、皆さんの中にも「このクスリ、効いてんのか、どうか、わからんわ。」というクスリはありませんか。なかなか症状が良くならないとお医者さんの方も、「そのクスリを止めましょう。」とは、言いづらいですし、患者さんの方も、「まだ治ってないのに、クスリを止めるのは不安。」と感じ、効きもしないクスリをダラダラと飲みつづけていることがあります。そういった場合は、一度クスリを数日間止めてみてください。

もちろん、高血圧や糖尿病、心臓病など、勝手に止めると生命が危険になるクスリは別です。整形外科のクスリは、勝手に止めても、まず、生命にかかわるものはありません。筋肉のコリを緩めるクスリや、血行を促進して、しびれを治すクスリなどが、このたぐいです。止めてみても、たいして変わらないようなら、きっぱりと止めましょう。そして、少々膝や腰が痛くても、運動を始めてみませんか。一時的には、痛みは増すかもしれませんが、そんな時こそ、痛み止めのクスリに頼っていいと思います。長期的には、きつといい結果が待っていると思います。

(なお、先程の紙芝居についての情報が有りましたら、ぜひお知らせください。)



病院機能評価を受審して

島田病院 制度対策部 部長 三谷圭司

病院機能評価とは、(財)日本病院機能評価機構が設定した評価基準に基づき、複数の評価者が中立的・客観的な立場で、医療機関の活動を書面や実地調査を通じて総合的に評価するものです。各項目が基準に達していると判断された場合、認定病院となります。

評価される内容は、理念を持ち、それを職員に浸透させ、患者の権利を尊重しているか、診療・看護が安全かつ確実に行われているか、施設・設備は患者の利便性に配慮されているか、病院の管理・運営体制は合理的かなど、多数の項目で評価されます。

島田病院は、平成15年4月に認定病院となり5年ごとに更新受審を重ねてきました。今回の受審目的は、現在推奨されている診療体制・診療記録・診療やケアの進め方・相談や伝達法等を学び、考え、よりよく改善することでした。

11月14・15日の2日間で受審し、12月末に届いた中間結果では「水準に達していない」項目はなく、良い評価を得られました。成果は、現状の把握と改善のきっかけができたことです。これからも島田病院を受診される方々のプラスになるよう、具体的な改善の方向性を明示し、目標を設定し、職員の自覚と改善意欲・チームワークの醸成を一丸となって進めます。

八尾はあとふる病院 リハビリテーション部 課長代理 源 夏野

八尾はあとふる病院はすでに認定病院ですが、回復期リハ病棟に関してより充実した回復期リハ機能を評価する『付加機能評価リハ(回復期)Ver. 3.0』をはじめて受審しました。そして、平成25年11月1日付で認定されました。大阪府でこの認定を受けているのは当院を含めてわずか2病院のみです。(2013年11月現在)

今回の付加機能では、私たちが日々提供するリハケアのプロセスをそのまま提示し一定の評価を得ることができました。また自分たちの位置づけを客観的に把握でき、改善すべき点が具体的・現実的なものとなったという点は大きな成果であると考えています。これからも地域の方々に必要される回復期リハ病棟を目指していきたいと思います。

島田病院スケート部 村竹崇行・武田仁美選手 ソチオリンピック ショートトラック スピードスケート日本代表選手選考競技会にて激戦!!

平成25年12月13日～15日の3日間、大阪プールアイススケートで行なわれた『ソチオリンピックショートトラックスピードスケート日本代表選手選考競技会』に島田病院所属の村竹崇行・武田仁美選手が出場しました。そして、島田病院職員等による応援団を結成し、スタンドより声援を送りました。両選手ともに日本代表枠をかけ最後まで諦めずに激走しましたが、オリンピック出場は叶いませんでした。しかし、彼らの激闘ぶりは、応援した我々すべての者に大きな感動と勇気を与えてくれました。

Eudynamicsはびきのヴィゴラス 南方 秀文



ショートトラック村竹選手

ショートトラック応援団

第22回 はあとふる学会を開催しました。

平成25年12月8日(日)に、LICはびきのホールMにおいて開催した今学会のテーマは、「多職種協働でつなぐ包括ケア ～地域ブランド力を高めよう～」としました。このテーマは、他国に類をみないスピードですすむ日本社会がかかえる課題でもあるので、非常に大きなテーマと言えるかもしれません。しかし、私たちが目指している良質のヘルスケアサービスには、欠かせないものであり、日々取り組み続けていることでもあることから、このテーマにしました。

当日は290名の職員が参加し、25の講演、6のポスター発表が行われました。自分の職種の特性をしっかりとらせること、そして、それぞれの職種が多職種協働でケアの質をあげていき、地域に発揮していくこと(地域ブランド力)というテーマに沿った発表内容で、活発な意見交換や質問がなされ、会場は大いに盛り上がりました。

この学会で、はあとふるグループの活動が包括ケアにむけ、前進していることを実感できたと感じています。

学会長／嶋田芳彦 副会長／湯又光恵

理事長賞	通所リハからの「おもてなし」～要支援者へのサービスを通して～ 八尾はあとふる病院 リハビリテーション部 神谷 修
学会長賞	おとうさんと一緒にいい～不安いっぱい在宅復帰～ 介護老人保健施設悠々亭 4階フロア 大内 史帆美
金賞	地域に向けたリハビリ資源の伝達 ～地域に必要とされる事業所を目指して～ 介護老人保健施設悠々亭 地域連携課 江田 裕匡
銀賞	八尾市における訪問リハビリテーションの課題と実践 ～きっかけはチャンス!連携の基本は自分から～ 八尾はあとふる病院・介護サービスセンターはあとふる 真鍋 阿沙子
銅賞	医療と介護をつなぐお薬手帳～多職種でもっと活用しよう～ 医療法人永広会 地域連携部 はあとふるケアセンター 北川 美紀
●ポスター部門／災害に時なし場所なし予告なし～自分で自分の身を守るために～	
最優秀賞	介護サービスセンターゆうゆう亭 チーム100W(ワット) 永吉 益美
ベスト クエスション賞	八尾はあとふる病院 リハビリテーション部 元石 光裕 八尾はあとふる病院 リハビリテーション部 上田 裕太



11/1より看護職の ユニフォームが新しくなりました。

多くのスタッフがデザインを考え、最終選考まで残った4つの候補の中から投票で1着が決まりました!私たちが考えたユニフォームの一番のポイントは、左袖に紺色でさりげなく入っている理念の刺繍です。前回のユニフォームより動きやすく、色も明るくなっています。新しくなったユニフォームで、より一層質の高いヘルスケアサービスの提供に取り組んでいきます。

今後も様々な職種のユニフォームをリニューアルしていく予定ですので、楽しみにして下さい。



私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを

知識
Cool Head 心 Warm Heart
Beautiful Hands 技術
で支援します

- 1.「確かな知識と技術」を追求します
- 2.「心に届く」を追求します
- 3.「安全」を追求します
- 4.「信頼でつながるチーム」を追求します



Cafe Infection Control

感染管理認定看護師がお届けする感染対策情報

法人本部 感染・安全管理担当

感染管理認定看護師 森下 幸子

英国感染管理学会 (IPS:Infection Prevention Society) へ行ってきました

「看護と言えばナイチンゲール」は、皆さんもご存じかと思いますが、実は、感染管理も英国の歴史は古いのです。そこで、今回は、英国の感染管理学会へ参加し新しい情報を得たいと思い、9月30日(月)から10月2日(水)まで、ロンドンへ行き、3つのセッションを聴講しました。主に、手指衛生(手洗いと手指の消毒)や職員研修の取り組みが報告され、「これは、はあとふるグループでも取り入れる事ができそう」と思える情報もあり、充実した時間を過ごすことができました。

また、病院見学へ行くこともできました。ホテルのような病院は必要かと感染対策に関連する学会で話題になります。病院は、ホテルとは異なりあらゆる治療やケアを行うことで、多剤耐性菌の拡大が問題になります。そのため、常に埃がたまらないような工夫、手が洗いやすいデザインのシンク、清掃やメンテナンスが行いやすい設計、消毒剤が使用可能な材質を選ぶことが重要です。今回、私が訪れた英国の病院は、感染対策の条件が整備されておりました。写真1は、個室に入る前に手を洗うことができるシンクです。このシンクは

職員が手を洗うためのものですから、鏡はありません。石けんとペーパータオルも壁に設置され、緑膿菌の温床になり清掃が行いにくいオーバーフローもなくなんとシンプルなものです。写真2は、床の角に埃がたまらないように施工されている廊下と埃がたまり掃除が難しいブラインドが二重窓の中に入っています。長く大切に使うイギリス人の気質を感じますよね。

とは言ってもせっかくの13年ぶりのロンドンですので、勉強ばかりではありません！ロンドン観光にミュージカル、お買い物にも行きました。大忙しの5泊7日の旅でしたが、すっかり、はまってしまい、今年も行こうと思っています。開催地は、グラスゴーです。今から、楽しみです。



個室へ入る前に手を洗う看護師



廊下のアル加工と二重窓の中にあるブラインド



はあとふる グループ

- 医療法人(財団)永広会
 - 島田病院 TEL 072-953-1001
 - Eudynamics はびきのヴィゴラス TEL 072-953-1007
 - 介護老人保健施設 悠々亭 TEL 072-953-1002
 - 在宅介護支援センター 悠々亭 TEL 072-953-1003
 - 介護サービスセンター ゆうゆう亭 TEL 072-953-5514
 - 〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1
- ヘルパーステーション 悠々亭 TEL 072-953-1062
- 訪問看護ステーション ハートパークはびきの TEL 072-953-1004
- 〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7
- 八尾はあとふる病院 TEL 072-999-0725
- 〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1
- 介護サービスセンター はあとふる TEL 072-999-8126
- 〒581-0815 大阪府八尾市宮町2-10-22
- 社会福祉法人 はあとふる
 - ゆうゆうハウス 通所介護 サービス付き高齢者向け住宅 TEL 072-931-1616
 - 〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山96-10